

平成 28 年度 学校評価

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月24日、3月3日 実施)	総合評価(3月8日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策(案)		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	(1) 幅広い学習ニーズに対応する多様な柔軟な教育課程の編成をともに生徒主体の授業づくりに取り組む。 (2) 生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な活動を引き出す。また両校での交流を行う。	(1) ① 新校の教育課程を検討する。 ② 2年次の類型を適切に選択させる。 ③ 学習評価の総括方法を改善する。 ④ 補習等組織的な学習支援を行う。 ⑤ 協同的な学び推進チームを中心に生徒が主体となる授業づくりを組織的に取り組む。 (2) 行事等で生徒の主体的な活動を引き出す。	(1) ① 両校で新校について共有化を図り、教育課程を検討する。 ② 適切な類型選択ができるように丁寧な説明・指導をする。 ③ 学習評価の総括方法の規定を変更する。 ④ サポートティーチャー等を活用して曜日や時間を設定して定期的な補習を実施する。 ⑤ 協同的な学び推進チームを中心に年間計画を作成し協同学習を取り入れた授業づくりを推進する。 (2) ① 生徒会を中心に生徒の主体的な活動を引き出す行事等を工夫する。 ② 文化祭の出展内容等について工夫する。	(1) ① 教育課程の検討ができたか。 ② 類型の適切な選択ができたか。 ③ 評価の総括方法の新規定ができたか。 ④ 定期的な補習を実施できたか。 ⑤ 生徒が学び合う授業づくりができたか。 (2) ① 生徒が主体的に活動する行事等を実施できたか。 ② 文化祭の出展内容等を工夫できたか。	(1) ① 新校の教育課程の原案を作成した。 ② 2類型の適切な選択ができた。 ③ 精度と効率性を図った新規規定に従って成績処理を行った。 ④ 日本語指導を含む教科指導を継続的に行った。夏期講習を再開し延べ70名超の参加申込があった。 ⑤ 学年中心に相互の授業見学とそのフィードバック等授業研究を計画的に実施した。 (2) ① 行事や取組で生徒が主体的に動く場面が増えた。また組織としての動きを意識させる指導を重ねることにより、全員が動けるようになった。 ② 有志企画や授業発表などクラス企画以外の出展が増え、閉会レモニーも生徒会を中心に実施できた。	(1) ① 各教科の要望を吸い上げ、両校での調整を図る。 ② 生徒数減少の中、クラス編成の工夫が必要である。 ③ 評価算出方法についての更なる理解が必要である。 ④ 学びたい生徒が学べる場所や機会を増やす。 ⑤ 生徒の主体的学びを育む指導法の工夫が必要である。 (2) ①② ・準備段階から参加意識を高めるため、見通しの持てる企画検討の機会を提供する。 ・行事の経験を伝達する場を設け、学校全体で行事を創る雰囲気作りをする。	(1) ④ 夏期講習の再開はありがたい。今後も継続してほしい。 ⑤ 「協同的な学び」は授業の手立てとしてすばらしいが、学力を伸ばすという点で課題があると思う。 (2) ① 文化祭では生徒達が生き生きと活動し、言葉づかいもとても丁寧でよかった。	(1) ① 教育課程の検討を進めた。学び直しの検討も必要である。 ② 類型の理解が十分ではないと思われる選択もあった。 ③ 学習評価規定の改定はできた。 ④ 夏期講習の復活、補習等学習支援が進んだ。 ⑤ 生徒の主体的学びを引き出す授業づくりに取り組めた。 (1) ① 生徒会が中心となって活動する場面が増えた。 ② 行事等での自主参加数と内容の充実が進んだ。	(1) ① 併置校の良さを生かした教育課程を両校で検討していく。 ② 理解に基づいた類型選択のためのガイダンス機能を高める。 ③ 学習評価の運用の徹底を図る。 ④ 学習支援を強化していく。 ⑤ 「協同的な学び」の研修等授業研究を継続する。 (1) ① 生徒の企画やアイデアを活かし意欲向上を図る。 ② 生徒会のサポートをしながら行事等の内容充実を図っていく。
2 生徒指導・支援	(1) 部活動を活性化させ、学校生活への充実感をもちたせる。 (2) 一人ひとりに応じたきめ細やかな生徒指導と生徒支援を行う。	(1) ① 部活動の活性化やその活動を支援するための取組を進める。 ② 活動成果を地域等に還元したりする活動を行う。 (2) ① 理解に基づいた生徒指導を行い、生徒の行動変容を促す指導を目指す。 ② あいさつを促す取組を工夫する。 ③ 規範意識を育てるための取組を進める。	(1) ① 部活動の入部や活動継続への取組及びその活動を支援するための工夫をする。 ② 部活動で地域や小中学校等と連携した企画を考え、実施する。 (2) ① 日頃の指導や行事等の事前事後の指導等を通して、自己の行動について生徒に考えさせ行動の変容につながる生活指導を進める。 ② 自発的なあいさつを促す取組を進める。 ③ ルールやマナーについて意識喚起をする取組を工夫する。	(1) ① 入部や活動継続への取組及び活動の支援ができたか。 ② 連携した企画を実施できたか。 (2) ① 自己の行動を振り返らせ、行動の変容につながる生徒指導ができたか。 ② あいさつが自発的にできるようになったか。 ③ 規範意識を育てる工夫ができたか。	(1) ① 4月の部活動紹介と体験入部や通年部活動参加を推進し、新たな活動として陸上同好会が設立された。 ② 合唱部の介護施設訪問、合唱部・吹奏楽部の「ビッグレスキュー神奈川」への参加、ダンス部の青少年施設訪問、JRC部の地域清掃と文化祭で震災復興企画、生徒会の募金活動等を行った。 (2) ① 生徒に寄り添った生活指導や、対話を中心とした丁寧なモラル・マナー指導により、特別指導件数は昨年度と比べ4割減少した。 ② 通常指導に加え、年3回の挨拶運動に全職員で取り組んだ。生徒会も積極的に参加し、自発的に挨拶する生徒が増加した。 ③ インターネットへの書き込み等に関する学校方針を策定、美化委員会やクラス単位での地域清掃など生徒の規範意識を育てる取組をした。	(1) ① 人間関係やルール順守が苦手な生徒も多く、部活動が続かない状況もある。教員のサポートと柔軟な部の運営が求められる。 ② 各所との継続的な交流も増え、自己肯定感も増している。今後も推進に努める。 (2) ① 特別指導件数の約半数は、喫煙と授業妨害であり、行動変容につなげる指導ができるかが課題である。 ② 生徒のアンケートや振り返りを活用し、今後も明るく自発的に挨拶することができるように取組を工夫する。 ③ 地域からの生徒の指導を求める電話の約7割が1学期に集中している。事前指導の工夫が課題である。	(1) ① 部員数が少なく公式戦出場が困難な部活もあるので、部活動の活性化を図って欲しい。 (2) ① マナーの点での課題等もあるが、生活指導の効果が着実に上がっていることをアピールすべきである。年度当初に学校の指導方針を示し、職員誰もがタメの理由を説明できたらよい。 ② スマホ等によるインターネットトラブルが心配されるので、十分に危険性を認識させる指導が必要だ。	(1) ① 部活動の入部率と定着率のための取組の工夫が必要である。 ② 生徒の学校外での活動は増加してきたので、それを広げていくことが課題である。 (2) ① 生徒指導件数は減少し、学校生活は落ち着いてきた。 ② 全校による挨拶運動ができるようになった。 ③ 他の生徒や地域等を意識させる規範意識を育てる取組は進んできた。日常指導を大事にする。	(1) ① 入学前の体験部活などの工夫が必要である。 ② 地域の要望等を取り入れた活動や参加する部活動の増加を図っていく。 (2) ① 年度当初の未然防止のための指導を検討していく。 ② 生徒を巻き込んだ挨拶運動になるように取組を進める。 ③ マナーやルールを身に付けるために振り返り等を通して意識啓発を図る。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月24日、3月3日実施)	総合評価(3月8日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策(案)		成果と課題	改善方策等
2			④教育相談体制を充実し、生徒の困り感を早期に把握し合理的配慮も含め適切な支援をする。 ⑤生徒支援に関する知識等を系統的に学ぶための研修を企画運営する。	④スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを活用し、ケース会議等で合理的配慮も含め、早めで適切な対応や支援ができるようにする。 ⑤本校教員として必要な生徒支援に関する力を系統的につけるための3カ年の研修計画を立て、実施する。	④合理的配慮も含め適切な支援ができたか。 ⑤研修会計画を立て、生徒支援に関する研修が実施できたか。	④SC、SSWと連携したケース会の実施、支援内容の共有・実施に取り組んだ。 ⑤職員対象の生徒支援研修会を実施した。生徒支援の専門性を高めるための3カ年の職員研修計画を作成した。	④支援の継続性を図るため個別指導計画の作成と支援の推進が課題である。 ⑤研修計画に基づく研修の実施に取り組む。	④卒業生数が増加してきている。様々な課題のある生徒達の卒業は先生方の支援のおかげと思う。	④支援体制は定着してきた。担任が一人で抱え込まないで済むようにしていく。 ⑤生徒支援についての理解は進んできたが、専門性を更に高める。	④担任とのパイプを太くし、SC・SSWとの連携を強化していく。 ⑤個別の指導及び支援計画等への理解を進め、活用を図っていく。
3	進路指導・支援	生徒が将来を見通して目標を持ち、自立のための努力ができるようなキャリア教育の充実を図る。	(1)確かな目標を持つことができるように一年次から一貫したキャリア教育を実践する。 (2)進路指導をより組織的に行う体制をつくる。	(1)①「社会実践」の指導内容を改善・充実させる。 ②外部資源を活用し、自己のあり方・生き方、職業観を醸成する学習を企画・実施する。 (2)①他学年の職員及び他学年キャリア担当で3年生の進路指導をサポートし、業務を継承できる体制をつくる。 ②業務への理解と継承を考え、教員用手引きを作成する。	(1)①「社会実践」の指導内容が改善・充実することができたか。 ②外部資源を活用できたか。 (2)①サポートする体制はできたか。 ②教員用の手引きを作成できたか。	(1)①目標設定と振り返りを徹底し、内容の充実を図った。 ②大学・専門学校等による分野別がイブンスの他に進路演劇やゲーム等の企画を実施し、取り組みやすい工夫をした。 (2)①就職指導において面接、企業訪問の日程調整等で他学年やグループで協力して業務を行った。 ②生徒向け進路指導用冊子を作成した。	(1)①系統だった指導と2年後半からの進路指導への切り替えを徹底する。 ②がイブンス等で活用する外部の特徴や生徒のニーズを勘案して活用を図る。 (2)①更に協力体制を強化していきたい。 ②全学年で年間を見据えた指導用冊子等を完成できるように取り組む。	(1)①中学校での職場体験を高校のキャリア教育で引き継ぎもらいたい。	(1)①「社会実践」の内容改善は進んでいるが、更に進める。 ②キャリアがイブンスの工夫はできつつある。 (2)①学年とキャリアグループとのかかわりを強くしていく必要がある。 ②キャリア教育の資料整備を進める。	(1)①「社会実践」の充実と2年後半から進路指導への意識の切り替えを進める。 ②卒業生等の活用を工夫し、更に充実していく。 (2)①協力の在り方を工夫をする。 ②進路指導室の移動やキャリアカウンセラーを配置し、指導の充実を図っていく。
4	地域等との協働	中学校、保護者、地域等に理解され、信頼される学校づくりを進める。 (2)地域やPTAなどとの連携を推進する。	(1)本校についての理解を得るための情報発信を積極的に行う。 (2)地域やPTAなどとの連携を推進する。	(1)①本校への理解を促すために職員及び生徒による中学校訪問や、生徒がより参加する学校説明会になるように工夫する。 ②学校生活の様子がわかるようにホームページ等積極的な広報活動を行う。 (2)PTAや地域と連携した活動を行い、相互に交流できる取組を進める。	(1)①本校への理解は進んだか。 ②生徒の様子を伝える広報活動ができたか。 (2)相互に交流できる取組を進めることができたか。	(1)①職員による学校訪問や生徒が主体的に関わる学校説明会を実施し、わかりやすかったとの感想をもらった。 ②ホームページに学校からの連絡だけでなく、生徒の活動の様子をアップし、広報活動に取り組んだ。 (2)職員防災研修会やPTA主催の陶芸教室を地域等に積極的に開放し、地域より26名の参加があり交流できた。	(1)①②新校1期生にあたる来年度の生徒募集は新校を理解してもらう情報提供をしていく。 (2)研修会の内容やイベントについて、地域の方にわかりやすく、より参加しやすい企画を考える。	(2)①地域に開かれた教育として、小中高連携での面白い連携ができないかと考えている。 ②地域の人も参加してくれる陶芸教室などは継続してほしい。	(1)①生徒参加の説明会等により理解は進んだ。新校のPRが課題である。 ②ホームページで生徒の活動を伝えることができるようになった。 (2)学校への来校機会は増加した。	(1)①生徒の学校生活の様子の伝達と新校のPRを工夫する。 ②学校内外への情報発信の工夫をする。 (2)学校への理解を図るため来校してもらえよう工夫する。
5	学校管理 学校運営	(1)安全で清潔感のある学習環境をつくる。 (2)効率的で組織的な学校運営をめざすとともに事故や不祥事防止に努める。	(1)①気持ちよく学べる学習環境を整える。 ②防災計画に基づいた防災対策を行う。 (2)業務の効率化と事故・不祥事防止に努める。	(1)①日常の清掃活動に力を入れるとともに環境美化への意識啓発を図る。 ②3年間の防災計画に基づく防災対策や防災教育を行う。 (2)①効率的に学年・グループの業務が行えるように工夫する。 ②マニュアルにしたがったの確認を確実にを行うとともに職員による事故防止会議を実施する。	(1)①校内美化は進んだか。 ②防災計画に基づいて実施できたか。 (2)①効率的な業務処理ができたか。 ②事故はゼロだったか。職員による事故防止会議を実施できたか。	(1)①美化委員会によるクラスの清掃チェックを実施し、結果をクラスにフィードバックし意識啓発を図ったが、日常化までではできなかった。 ②3年間の防災教育に組み込む各教科の取組をまとめた。また新たに喫食訓練・DIG研修を取り入れ、防災用品等も整備した。 (2)①効率的な業務処理の有効手段を見出すまでには至らなかったが、今後業務と職員人数を勘案しての業務精選が必要である。 ②年度当初に情報処理・会計処理の事故防止研修を行った。また、成績処理については徹底できず、事故ゼロには至らなかった。	(1)①今回は自分のクラスの清掃チェックだったが、学年全体のチェックに広げるなど生徒の主体的活動を促していく。 ②DIGを新1年で取り組む。また、集約した流れを元に、より効果的な防災教育の流れを再検討し構築していく。 (2)①新校への移行期であることを鑑みて業務のより一層の精選と円滑化を図る。 ②学事規定の変更点に充分周知徹底できなかつた。ミゼロを目指して改善し、徹底をしていく。	(1)①玄関周りが年々きれいになってきた。美化活動を学校全体の取組となるよう進められたらよい。 ②防災について地域と中学生との連携はできているが、地域の子どもではない高校生とは難しさがある。災害時の高校生力は大きいので、連携の方法を考えてみたい。	(1)①生徒による自己チェック体制の基礎はできたので、日常化していく。 ②日常的な防災教育が定着してきた。防災教育を充実させる。 (2)①新校準備による業務増加を考え効率化に取り組む。 ②事故件数は減少しているが、各自の精度アップや相互チェック体制の徹底を図る必要がある。	(1)①委員会等の活動を活発にし、美化意識の涵養をしていきたい。 ②防災について生徒主体の活動を計画的に行っていく。 (2)①進校のワーキンググループの活動が円滑に進むように、業務の精選と連携を図っていく。 ②事前研修他未然防止のための対応をしていく。